

令和5年度 第2回瀬戸市ICT活用・DX推進協議会 議事録

開催日時	令和5年10月30日（月） 午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室				
出席委員	10名	欠席委員	なし	傍聴者	4名
事務局	瀬戸市 経営戦略部 駒田部長 情報政策課 梶田課長、久保井主幹、岡田課長補佐、 水野主任、山田主任、大澤主事				
会議内容	<p><b>1. 瀬戸市挨拶</b> <b>(川本市長)</b> ご多用中、今回のご出席に心より御礼申し上げます。 さて、本市のICT活用やDXの施策は既に運用フェーズに入り相応の効果を得ている事項もございます。それらを踏まえて、あらためて本市の「住む」「働く」「学ぶ」「育む」といった暮らしの要素を整えて、「さらに良くしていく想い」を大切にしながら、今後もより良い知恵や改善を加え続けて市としてのサービスの質や量を高めていきたい所存です。 つきましては、委員の皆様からの大所高所からのご助言・ご示唆を賜りますと幸いです。今年度も本協議会をよろしく願いいたします。</p> <p><b>2. 委員紹介（各委員よりあいさつ：委員名簿順）</b> <b>(安田委員)</b> 大学では情報学研究科で社会情報学を専門分野としていまして、このような地域のデジタル化もまさに研究のテーマの1つです。現在、各自治体は様々なDX施策を推進しておられますが、今回も取組みの進捗報告を受けて「瀬戸市ならではのデジタル化」という視点も入れて委員の皆様と一緒に考え議論したいと思います。</p> <p><b>(後藤委員)</b> 大学での専門分野は安田委員と同じく社会情報学となります。自分は、学生の頃は情報システム関連を、そして教員になってからはコンテンツ系で映像や教育分野を、そして現在はマネジメント系へと幅広く研究してまいりました。瀬戸市ともいろいろなプロジェクトを手掛けており、ちょうど本日も市内の企業に取材撮影を行わせていただくなどの活動をしています。</p> <p><b>(岸田委員)</b> 勤務先ではデータを用いたスマートシティ事業や新領域ビジネスの創出の</p>				

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>ご支援を担当しています。この協議会では、担当業務に加え、通信やデジタルの観点でもお役に立つことができると幸いです。</p> <p><b>(藤川委員)</b></p> <p>勤務先の所属組織はデジタル・ガバメント推進統括部であり、行政のDX推進において良いソリューションをどうご提供するかという事業活動をしています。DXにおける国と地方の役割を見極めつつ、この自治体ならではの施策という観点で皆さんとディスカッションすることでお力になればと思います。</p> <p><b>(穴山委員)</b></p> <p>勤務先では自治体DXに関するサービスの推進責任者という立場です。また、システムの標準化・共通化の取りまとめに加えて、自治体職員のデジタル化、市民のデジタル化、地域のデジタル化という三つのカテゴリーでご提供するソリューション製品の整備を推進しようとしています。私どもの知見が少しでもこの協議会のお役に立つことを願っています。</p> <p><b>(高田委員)</b></p> <p>瀬戸市の商工業界の皆様が、いわゆるDXとまでいかないまでも、ICT化や電子データの扱いを上手く進めていただくという視点を持って、ここで議論された事をそれらの皆様へ情報発信していく視点で参加させていただきたいと思います。</p> <p><b>(寺田委員)</b></p> <p>赤津地区で陶磁器卸業の山長陶苑を営みます。1300年の歴史がある当地の焼き物産業は作り手や卸業も総じて衰退しつつあります。伝統的な織部焼などは一子相伝的な故に、それが途絶えてしまう前にまさしくデジタル的な技術で継承できれば今後の後継者の育成にも寄与できるのではと考えます。そのようなことも含めてお話ができればと思います。</p> <p>併せまして、自分は市の教育委員も務めましたが、その視点でも少しお話ができればと思います。</p> <p><b>(磯村委員)</b></p> <p>今回から委員を務めます。教育分野のDXはコロナ禍を受けて短期間で進展したものもございますが、今後さらに改善すべき事なども多々あるかと思えます。本協議会の中でいろいろなご助言をいただきながら委員を努めてまいりたいと思います。</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p><b>(原委員)</b></p> <p>地域の自治会では会計を担当する一方で、デジタル化や情報共有を鋭意進めています。例えばこの1年間で従来のFAXによるやりとりからLINEの活用へと変革することができました。</p> <p>新聞記事によると地方自治体のデジタル化は遅れているとありましたが、地域でもその進展には濃淡がございます。この場で情報収集して自治会内でも展開・適用できればと思います。</p> <p><b>(大森委員)</b></p> <p>先ほど原委員からお話がありましたが、アナログ的な事務がもとより得意な行政においてはデジタル化が遅れている点は否めません。しかしながら、行政としてもDXによく馴染んだ上で、さらに有効活用したいという意欲がございますので、皆様のお知恵をいただきながら今後も精力的に進めていきたいと考えます。</p> <p><b>2. 会長・副会長選任</b></p> <p><b>(会長の選任)</b></p> <p>協議会設置要綱第7条第2項に基づき、会長の選任について出席委員に諮ったところ、岸田委員から安田委員の会長就任の推薦があり、拍手をもって承認された。</p> <p><b>(副会長の選任)</b></p> <p>同じく協議会設置要綱第7条第2項により、安田会長からの指名によって後藤委員が副会長に選任された。</p> <p><b>(安田会長より挨拶)</b></p> <p>あらためまして今年度の協議会をよろしくお願いたします。私自身、様々な自治体のDXの推進に関わらせていただいておりますが、DXは庁内業務の効率化に加えて、ユーザー目線・住民目線でのサービスのありようが大変重要なポイントと考えますので、委員の皆様はそれぞれのお立場で活発な意見提起をお願いいたします。</p> <p><b>3. 議事（事務局説明）</b></p> <p>「瀬戸市ICT戦略推進プラン・官民データ活用推進計画」及び「DX重点取組み事項」の進捗状況について</p> <p>報告資料にて事務局から取組みの推進状況を説明した。</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p><b>4. 各委員と事務局による質疑応答・意見交換</b></p> <p><b>(岸田委員)</b></p> <p>瀬戸市においては、庁内のDX推進体制作り・ユースケースの洗い出しと実践・職員や利用者のスキルアップといった人的側面、ツール整備・周知・浸透といったシステムの側面と、両面で取り組みを継続・推進いただき、昨年度からさらに施策の成果が出てきている感がありました。</p> <p>中長期目線での全国のDXのトレンドを申しますと、2025年度に向けて自治体・教育・大企業のDXがますます進み、2027年度に向けて中堅・中小企業や医療分野でのDXが進むとの市場予測があります。</p> <p>また、他自治体が直面している課題としては、教育分野ではGIGAスクール端末の一層の活用やプログラミング学習、中堅・中小企業ではDXへの意識改革・商工会議所と連携したDX支援策・自治体独自の補助金の活用等が挙げられます。また、医療分野ではあいちデジタルヘルスケアプロジェクトに賛同する市町村や民間企業が増えているとのことでした。</p> <p>以上の分野に関連した瀬戸市の現状の課題や取り組み予定があればお聞かせください。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>諸分野でのDXの傾向について情報をご提供いただきありがとうございます。本市はこれまでDXロードマップにある施策を鋭意推進し、RPAやOCRの活用がようやく緒についたというのが正直なところです。従いまして、お示しいただいたような世の中のDXのメガトレンドに追従する上での課題や取り組み予定については、未だ具体的に申し上げることができないのが現状です。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>これまでは総じて市民サービス向上につながる施策に注力してまいりましたので、事業者様向けという点では補助金を拠出する程度にとどまっています。しかし今後は、我々も持てる知識で商工会議所様と意見・情報交換させていただければと考えます。医療については、マイナンバーカードが今後大きく関わってくる分野であり、それを念頭に推進したいと考えます。</p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>国や県は理想的なDXの指針を提起されている一方で、市民というステークホルダーと対面で活動される市町村は様々なご苦労があるかと思いますが、国や県の動向も注視しつつ、活用できる制度などは大いに活用いただくと良いと考えます。</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p><b>(藤川委員)</b></p> <p>ご説明の達成指標と進捗は、適正なK P I 設定により何が進んでいて何が遅れているのかが阻害要因の仮説と併せてよく理解できる内容でした。</p> <p>個別の施策について申しますと「あいち電子申請届出システム」がU I の改善で活用拡大につながったということで、このように内部事務やしくみの改善がサービスの広がりに寄与していく点を今後も念頭に置いて推進いただくと良いと考えます。</p> <p>それから「マイナンバーカード普及促進・利活用」は、マイナポイント支給フェーズも過ぎたので、その後の利便性の提供のあり方が活用の機会を左右すると考えます。例えば今後バーチャル瀬戸のログイン時にカードをかざすと何かを得られると言ったような、先ずは手軽で便利に使うシーンが増えていくことが鍵と考えます。</p> <p>中堅中小企業のデジタル化については、例えば今、インボイス制度が一部の企業の経営負担になる懸念が挙げられていますが、そうした政策制度を逆に上手く活用することで地域の産業・企業を伸ばす工夫をするD Xも非常に大切であると思います。</p> <p>今後も以上のような点にも注力されることを期待させていただきます。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>地域の事業者様との対話という点では、官民で一緒になって取り組むことは何かという視点で今後、商工会議所様とも意見交換させていただければと考えます。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>マイナンバーカード普及に関して、つい先日、転入・転出の情報反映のタイミングが理由で利用者にご不自由をおかけしたことがございました。また、キャッシュレス決済は利便性をご提供できる一方で扱う側は事務の複雑さの克服が肝要と実感しています。インボイス制度対応も然りです、すなわち、提供側の工夫や労力に比例してサービスは良くなるものと心得えてD Xを推進したいと考えています。</p> <p><b>(穴山委員)</b></p> <p>今回の報告内容については、これまで協議会で提起しました点がよく反映されている印象があります。例えばキャッシュレス決済は単純にその件数のみならず現金決済を含む全体に占める割合であるとか、R P AやA I－O C R適用事例における想定効果が削減時間等の計数で示されているという点です。</p> <p>ところで「A I チャットボットによる総合案内サービス」では2ヶ月に一</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>度回答の適正化をマンパワーで行うとのことですが、これをA I側はディープラーニングで吸収していると想像します。しかし、その方法以外に最近の生成型A Iを活用して回答の改善がスピーディーに得られるとすれば、そのP o C (Proof of Concept : 概念検証)を通じて、職員の総がかり時間削減の糸口が見えるかとも思いました。</p> <p>それから「システムの標準化・共通化」については、国より改訂案が去る9月8日に出ており、大日程について従来からの変更も見受けられます。システムを提供するベンダーの協議会が最近構成されたこともあり、そこにおいては「当事者である自治体様側から見て関連情報をより理解しやすい形でご提供すべき」とベンダーとして提起しているところでして、その点にも今後尽力していきたいと考えます。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>適用効果をお示した本市のA I－OCRの活用事例は、文字化した情報を表計算ソフト側で受取り効率化したようなベーシックな事例ばかりですが、昨年度の本協議会で情報提供いただいたような高度な活用事例も参考にできるレベルに到達したいと考えます。</p> <p>生成型A IによるA Iチャットボットの回答改善については可能性を大いに感じるものの、検証して形にできるマンパワーが課題と考えます。なお、生成型A Iの活用については、去る6月に「個人情報・機微な情報の入力禁止」「取得情報の信憑性の確保」「取得情報の他者知的財産権の侵害回避」の点を庁内に注意喚起したところではあります。</p> <p>「システムの標準化・共通化」については国と自治体全体の施策のため、今年度から専任の幹部職員を配置して関係部署とともに推進していますので国の動きを注視しつつ推進したいと考えます。</p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>生成型A Iの利用は各自治体で先進的に取組まれている所もありますが、先ほど挙げられた注意喚起の3点は、それらを盛り込んだ「ガイドライン」として庁内で展開されたものでしょうか。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>生成型A Iの利用について現時点では実行予算を投じて使う段階ではないため、あくまでも注意喚起という形で案内いたしました。しかしながら、正式且つ本格的に事務で利用する場合は「ガイドライン」は確立すべきと考えます。</p> <p>生成型A Iも「チャットG P T」のような外部サービスをそのまま利用するものや、あるいは自治体向けに特化して行政ネットワーク内(LGWAN)</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>に閉じて利用するものなどがあり、それらを精査しつつ今後、利活用を検討していきたいと考えます。</p> <p><b>(高田委員)</b></p> <p>瀬戸市の産業界や事業者様の現状を申しますと、お1人から数人で事業を営まれている所などでは、例えばQRコードによるキャッシュレス決済などは導入にまで至っていない所も多いと見ています。キャッシュレス決済の利用者が大変増えている今の時代とはいえ、決済の手数料や手間が負担となり、とりわけ手数料が第一のハードルではと想像します。</p> <p>それから商工会議所では会議所間の会議などでオンライン化が定着した感がございますが、今もって相手への伝達の有効性を感じるのは強制的に紙が排出されるFAXだという点も否めません。このようにアナログにも未だ効果があると考えます。しかし一方で、瀬戸市のDXの取組みでAIチャットボット、RPA、AI-OCR、文書管理等々を拝見するにつけ、これらにご興味のおありの事業者様に対しては先行事例としてお話いただくのも一つかと考えます。</p> <p>他の分野ですと商工会議所としては先日、LGBTセミナーを市の担当部署と共催したり、産業・商業・観光・文化の振興面で市の担当部署と協働させていただいていますので、DX関係の取組みについてもWin-Winになる効果を狙って市と共に推進することは大変良いことと考えます。</p> <p>それから、マイナンバーカードの利用で最近感じるところとして、現在パスワード変更は役所で行う必要がありますが、他のしくみではカードのパスワード変更なども今はスマホなどで安全にできたりしますので、細かいことかもしれませんが、そういった事がマイナンバーカードでもできるようになると、より便利になるはずと考えます。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>地域の事業者様に関する諸情報、大変ありがとうございます。自ら積極的にDXに取り組まれているところがある一方で、推進にあたってはハードルが高いとなる事業者様も多い点も理解いたしました。瀬戸市のDXはロードマップはじめこのような報告資料を市の公式HPにてお示ししていますので、より詳しくお知りになりたい所があればお声がけいたしますと幸いです。</p> <p>一方で、市内では極めて先進的なDXの取組みを推進しておられる、あるいは卓越したICT/DX人材・エンジニアを擁しておられる事業者様もおありかと思えます。今後、そのような事業者様とも意見・情報交換の機会を賜ることがございましたらお声がけいたしますと幸いです。</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p><b>(寺田委員)</b></p> <p>地域の産業振興という観点で申し上げますと、それを実感する機会が無い ため、先ほど高田委員が言及された通り、ある程度規模が大きな中堅企業と規 模の小さな地場産業の事業者の間ではその取組みレベルの差が顕著ですし、 陶磁器関係の業界から見ても、DXによる産業・経済振興の実感が伴わない と感じているところです。</p> <p>それから、メタバースの「バーチャル瀬戸」についてですが、自分もアバ ターを登録して仮想空間内を体験しましたが、個人の主観ではありますが現 時点ではVRゴーグルを装着した一部の愛好家の皆さんが好む場として、そ れに特化していくような感があり、一般の方々への普及は遠いという印象で す。「バーチャル瀬戸」の存在価値を高めてより充実化していくためには、今 般リニューアルされた市の公式LINEとさらに連携・利用するようなこと も必要かと考えます。</p> <p>それから先般、小学生に「瀬戸焼クーポン」が紙媒体で配布されましたが、 こういったものも、デジタルを活用してより効果的に展開・利用できたら良 いのではとも思いました。</p> <p>また、GIGAスクールのタブレットも瀬戸市は早い段階から全小中学校 の生徒に配布していただきましたが、生徒のうちおそらく3割程度しか使っ ていないとも聞いており、もう少し上手に活用する手立てが必要かと考えま す。</p> <p>最後に、「オープンデータの提供と利用促進」については、近隣7市町の協 議会で議論・推進されていますが、実際にこの取組みが我々市民や瀬戸市に とって、いかなるメリットがあるかが見えづらいつ感じました。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>オープンデータの取組みの経緯としては地域の課題解決に向けて自治体が 保有する情報を誰もが2次加工しやすいように公開すべしという国の指針を 受けて進めてまいりました。近隣7市町で共同推進してきたのは、近接する 地域で情報を揃えることで、利用者がより広域視点で且つ便利に使えるとい うシナジー狙ったものです。</p> <p>その後、国は2年程前に「推奨データセット」を提起し、さらに今年3月 に「標準データセット」として確定させましたので現在、7市町でその書式 に合わせる対応をしているところです。3年前の当初は、実証実験への傾注 を意図していましたが、以上の経緯もあり標準書式に合わせる変換作業に注 力しているのが現状です。</p> <p>本データは、その有効活用を希望する地域の市民様やサービス事業者様に 向けてご提供しており、活用事例の登録もあいち電子申請で受け付けていて、 子供を連れてお出かけする情報サイト「いこーよ」で利用されています。標</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>準データセットが今後普及していくにつれて、さらなる活用の拡大を図ってまいります。</p> <p><b>(寺田委員)</b></p> <p>注文したモノが出来たら、つまりオープンデータを整備したら、それをいかに多くの皆さんに使っていただき、改善しながら効果を得ることが大切と考えます。例えて申しますと、子供の野球でグラウンドが使えない際に、各所に電話をかけて探すことをしているのですが、それよりも瀬戸市のオープンデータを使えば効率的で早い、というようなメリットが市民に伝わり便利になると有効活用につながると考えますので、そのような視点でぜひ推進していただければと思います。</p> <p><b>(磯村委員)</b></p> <p>今回、教育関係のDXとして報告された事項は、主に教育委員会の事務についてであり、こちらは教育部を主体に情報政策課の支援を受けて進めています。学校関係だと書類は非常に多いため、これまでの紙面による事務や決裁文書の作成を電子化していくような事は大きな前進と効果を得たものと捉えています。</p> <p>学校の現場におけるICT化について申しますと、1点目として保護者様から生徒の欠席連絡を受けて管理するシステムが今年4月から全校で運用されています。従来通り電話で受け付けることもできますが、このシステムを通じた連絡は学校がそれを受けた時点で学校内のグループウェアに反映できる効率的なしくみとなっています。また、出席簿や健康観察をタブレット端末等からできる学校が増えています。子供さんは今日の自分の心の状態をお天気マークで入力でき、コミュニケーションが苦手な方を助ける意味でも役立っています。このように学校現場では苦勞しつつもICT/DXの活用は徐々に進んでいて、1年前と比べて相当進展した感があります。但し一方で、機器を使うのはまだ成長段階にある生徒であるが故に、学校側はパスワード管理や機器管理、適正な利用のあり方にも注意を払うことに労力を割いているのも事実です。</p> <p>2点目はICT機器の更新が令和7年度から8年度にかけて必要で、この予算措置が課題です。これについては、国からの何らかの担保が必要ではと考えています。</p> <p>3点目は先生方の働き方改革ですが、前述の生徒の出欠管理や心の状態の見える化のしくみにより、学校によっては先生方に少し余裕ができたことで子供たちと接する時間が増えたところもあるようです。</p> <p>最後に、今後の学校システムの全体の方向性ですが、現在、校務を支援するシステムと生徒の学習をフォローするシステムは分離しています。来月以</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>降は本市ではそれらを連携させるような状態になっていきます。さらに、来年度以降に全体をクラウドに乗せるという構想が国から出ています。それは大きな事でもありますし、本市がどこまで追従していくかについては、マンパワーや予算措置も懸案事項として浮上しますので、情報政策課と相談しつつ、基本的には効果を確認しながら一步一步進んでいくべきとも考えています。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>ご説明をいただいた学校現場のしくみしかけは初めて知りましたので大変勉強になりました。それから最後にご説明の、国が方向性を提起した「校務と学習の分野のシステムの連携・統合」については、感覚的ですが今回の報告にもある行政システムの標準化・共通化に匹敵する大事業のような印象を受けます。ついては、全体最適を意識しつつも細部をよく注視して対応していく必要があるかと考えます。</p> <p><b>(原委員)</b></p> <p>今年、私どもの自治会では3台の防犯カメラを取り付けまして、市の生活安全課より補助金をいただきながら進めました。道路、公園、そして市が管理するその他の地域が対象でした。そしてそれらの同様な手続きを行うために、市側は非常に手間をかけているようにお見受けしました。そしてそれは改善の余地が多くあるのではとも考えました。</p> <p>関連しまして昔、私の前職で海外において工場や販売会社の立ち上げを進めた中で、中国やインドネシア、フィリピンなどの国で「ワンストップサービス」という進出企業向けの効率的な立ち上げ支援サービスがあったことを思い出しました。ICTも今ほど進んでない30年ほど前の話で、対外貿易委員会のようなところが窓口となって煩雑な手続きを一気通貫で代行してくれていたのです。</p> <p>以上のようなことを思うにつけ、これまでご報告いただいた「文書管理システム」なども上手く活用して、関連する図面や過去の申請情報も電子化して全庁共有できれば、効率的な「市によるワンストップサービス」が様々な部署で実行できるのではと考えます。庁内の組織間の壁もありそのような取り組みにはご苦労もあるかもしれませんが、そういった所に切り込んでいくと、利用する側もそして市側で事務をされる側も相当な効率化・省力化を得ることができるのではと思った次第です。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>ごもっともなご意見で、文書管理システムの将来のあるべき姿をご示唆いただいたものと理解いたしました。本市の幹部だった方も以前、情報政策と</p>
----------------------	--



<p>会議内容 (続き)</p>	<p>振興にいかに関わりつけるかが大変重要なテーマとなるかと考えます。その点は瀬戸市の行政の戦略としてももちろん念頭におありかと思いますが、より具体的に何ができるのかという点をステークホルダーの皆さんとしっかりと議論いただいて、真に有益な形にさせていただくことを願っています。</p> <p>3点目は、DX推進員座談会が約50名の規模で去る6月に開催されていますが、今後、より開催頻度を上げていただくと、現場のDX推進がより活性化すると考えますのでご検討ください。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>もとよりDX推進員の座談会は小人数単位の開催でして、そこで膝を突き合わせて現場課題のDXによる改善を意見交換するものです。そしてこれを起点に互いの顔が見えるやりとりが芽生えて、今では推進員のほうから情報政策課に足を運びDXとしてやりたいことを相談するような事もございます。</p> <p><b>(安田会長)</b></p> <p>承知いたしました。原委員からも「文書管理システム」に関する大変貴重なご示唆がありましたように、やはり全庁横串で進める施策・活動は極めて重要なことと思います。デジタルを利用して業務改善をしたいと希望するDX推進員・職員の皆様が、それぞれのアイデアをリアルな場であるいはネット上で常時交換・共有できれば、DX推進において組織として大きな強みになると考えますので、ぜひこの座談会は継続していただき、良い成果に結びつけてください。</p> <p>最後に今回、報告資料で取組みの進捗状況をわかりやすくご説明いただきましたが、これもデジタルという観点からすると、例えば以前も申し上げたようにWebサイト等を活用して、市民の皆様や職員の皆様に現状や目指す姿、使えるサービスという点でぜひダイナミック且つ分かり易くお示しいただければよいかと思えます。</p> <p><b>(後藤副会長)</b></p> <p>この協議会を通して従来より申し上げてまいりました「創ったら終わりでない、育てるしくみしかけこそが血の通ったDX」という点に照らしますと、今回の報告ではDX推進が、育てる苦勞の部分も含めて実態がよく見えており、少しずつ血が通った活動になっていると感じました。</p> <p>よくよく考えますと、このデジタル・トランスフォーメーション(DX)の取組みは、おそらく人類が初めて経験している類と言えるかと思えます。様々な地域や業界・業務分野において従来は不可能だったことをデジタル技術により試行錯誤の連続で乗り越えようとしているからです。そして、そこ</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>必要なことは、やはり現場の知恵的な部分です。「そこはこうしたら上手くいった」であるとか、「一度は失敗したけどやり方を変えて達成した」とかは、人が何かを進める上において極めて重要な力になる要素と考えます。瀬戸市で申しますと、DX推進員の座談会がひとつのその形になっているとも思いますが、そう言った局面が、どんどん自然発生的に例えば市民の中からも出てくると、素晴らしい成果につながるかと考えます。そのためには、物語というか、ストーリーをもう少しきちんと共有していくことも必要だと思いました。要は「こんなことができるようになりました」については今回も資料内容から理解ができますが、その先の「こんなふう楽しかった、嬉しかった」とか「助かりました」という部分は意外と見えにくく、そういう点も含めて上手く共有できるようになると、やはり人々のやる気や意欲に対する潤滑油的なものになっていくのであらうと考えます。</p> <p>このことに関連してもう少し別のお話で補足しますと、今回の報告で高齢者の見守りシステムの登録者数が想定より少ないというお話がありました。それはおそらく、この地方では20年来、東日本大震災のような災害を経験してないことから災害対策の動機づけになるような物語が風化しているところにもあるかと考えます。やはり、人々の動機になる部分で考えますと、自治体、教育現場、商工会議所などの現場で日々ステークホルダーとやりとりしてご苦労されている方々が、何かを前向きに進めようと思う力が諸所の場面で出てくるような、そういう仕組み・枠組みがこのDX推進に具備されてくると良いと思います。それこそが瀬戸市しかできない、瀬戸市ならではの活動になっていくのではと考えます。</p> <p>以上のような点で、DXの取組みは今後も期待感をもって大変楽しみにしていますので、お互いにいろいろな知恵を出し合って進めていければと考えます。</p> <p><b>(事務局 久保井主幹)</b></p> <p>副会長からの只今のご意見に関連しまして、今回のご報告にもございます気象警報・注意報の学校等への展開で試行錯誤を経てこの形に漕ぎつけたことや、AI-OCRの適用事例でデータを受けるエクセル側のチェックの数式に原課の担当が大変興味を示した点など、それらしくみの制作過程において「失敗した点」や「達成感や感心を得た点」は多々ございました。そういった点を盛り込んだDXのストーリー／物語を今後、庁内で共有してゆければと考えます。ご示唆について大変ありがとうございます。</p> <p><b>5. 閉会</b> <b>(安田会長)</b></p> <p>委員の皆様におかれましては、本日も有益なご意見をいただきまして本当</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>ありがとうございました。改めまして感謝申し上げます。</p> <p>質疑と意見交換は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>本協議会の内容につきましては、議事録として資料と共に市の公式ホームページで公開させていただきます。つきましては、議事録の内容のご確認を後日お願い申し上げますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>また2月末から3月の中旬を目処に次回の第3回協議会の日程調整を別途させていただきますので、何卒ご協力をお願いいたします。</p> <p>閉会にあたりましては、副市長から一言御礼を申し上げます。</p> <p><b>(大森委員／副市長)</b></p> <p>皆様におかれましては本日の真摯なご議論の中から貴重なご提案を賜り誠にありがとうございました。この瀬戸に暮らす市民様に向けて真に便利なDXが出来上がるように願っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p><b>(事務局 梶田情報政策課長)</b></p> <p>改めまして本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。会長による議事の進行、そして委員の皆様からの大変有益なご意見・ご示唆に対して、心より感謝申し上げます。</p> <p>それではこれにて、令和5年度第2回瀬戸市ICT活用・DX推進協議会を閉会いたします。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
----------------------	---